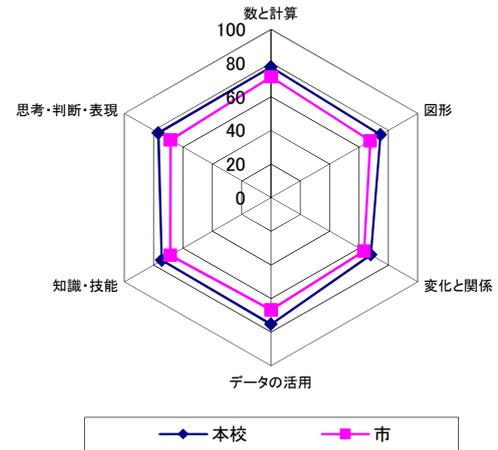


# 宇都宮市立今泉小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.6	71.8	76.2
	図形	74.6	67.7	67.8
	変化と関係	67.9	63.4	62.7
	データの活用	75.3	66.7	61.5
観点別	知識・技能	74.4	68.6	70.7
	思考・判断・表現	76.8	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均よりも高い。</p> <p>○分数の計算や文字の式の設問では正答率がいずれも市の平均を上回った。計算ドリルやAIドリルを利用して繰り返し課題に取り組んだ成果であると考えられる。</p> <p>●小数の計算(小数同士の乗法・除法)の正答率が市の平均を下回った。特に小数同士の乗法の正答率は66%程度、小数同士の除法は75%であり課題と言える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小数の計算では、図を見て小数倍の文章問題を解くために必要な乗法・除法の立式を考える力は身に付いているが、計算を正確にする力が不足している。基本となる計算練習を繰り返し練習することにより定着を図る。</li> <li>・授業場面で正答の確認に終始せず、誤答を基に学び合える授業展開を推進することで、思考力・表現力の向上を目指す。</li> <li>・文字を使った問題場面をイメージできるように、自分の考えを図式化する力を高めていく。</li> </ul>
図形	<p>平均正答率は、市の平均よりも高い。</p> <p>○三角柱の辺の長さを求める設問では、正答率が86.5%と、市の平均を8.7ポイント上回った。具体物を使った体験的活動や、AIドリルを活用した個別の復習の成果であると考えられる。</p> <p>●合同な三角形の作図の設問では、正答率が81.7%と、市の平均より3.5ポイント下回った。コンパスを用いて長さを測り取り、合同な図形を描くことへの習熟が必要であると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展開図を組み立てて立体を作る活動や、パソコンを用いて視覚的に理解を図る活動などを、積極的に取り入れる。</li> <li>・図形の合同条件への理解を深めると共に、辺の長さや角の大きさなど様々な要素を用いて作図する経験を積ませることで、正確に作図できる技能の定着を図る。</li> </ul>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均よりも高い。</p> <p>○基準量と比較量から割合を求める設問の正答率は67.3%で市の平均より16.8ポイント高く、十分な定着が図れているといえる。</p> <p>●速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直す設問の正答率は52.9%で、市の平均よりも6.9ポイント下回った。さらなる習熟が必要だといえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、面積や平均の求め方について定期的に復習する時間を設け、学習内容の更なる定着を図る。</li> <li>・課題を設定する際には普段の生活から数量の変化の関係に目を向け、興味関心をもつことができるように、実生活に関連付けた事象を取り扱う。</li> <li>・単位の変換に関して、図や表などを使って視覚的に表現する力を付けていく。</li> </ul>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均よりも高い。</p> <p>○ヒストグラムを正しく読み取る設問の正答率は91.3%と市の平均を6.6ポイント上回っており、よく理解できていた。</p> <p>●ドットプロットから中央値を読み取る設問の正答率は、65.4%と、データの活用に関する設問の中での正答率は低く課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、身の回りの事象について、興味・関心や問題意識をもって、統計的な問題解決の方法を考察できるよう指導していく。</li> <li>・目的に合わせたデータの収集や分類整理、表やグラフ、代表値の適切な選択など、一連の統計的な問題解決の方法を理解することができるよう指導していく。</li> </ul>